

## 1 人暮らしが与えてくれたもの

第16期 OG 土谷 鈴

「一人暮らししたら、家にカップラーメンとポテトチップしか置いてなさそうだね」と言われ続けてきた私ですが、2021年5月より、晴れて一人暮らしを始めました。OB・OG会誌というのは、近況報告をする場だと認識しておりますので、正直に近況報告をさせていただきます。周囲からのイメージ通り、破滅した日々を送っております。食事は基本1日(3食分の量の)1食、デリバリーか母親の冷凍してくれた手料理しか食べておらず、飲み会の日はお風呂に入らずに就寝、気づいたら次の日の朝で、すでに始業時間を過ぎていたことも度々。ちゃんとした日々を取り戻そう取り戻そうと思い、気が付いたら今日まで来ていました(これ以上書くとお嫁に行けなくなりそうですので、割愛します)。「こんなことになるなら1人暮らしなんてすべきではなかったのでは?」と思うことも多々ありますが、一方で得られたもの・気づきも多くありました。

まず、いろいろな誘いを断らなくなり、繋がりが増えました。遅くに仕事が終わっても、先輩との飲み会に参加できるし、連続して外食することにも抵抗がなくなりました。誘いを断らなくなることで、誘ってもらえる回数も増え、人脈も増えたような気がします。これは私が社会人になるにあたって目標としていたことでもあるので、大きな収穫でした。

また、自ら楽しみを生み出す力を身につけました。「今日の入浴剤は何にしよう。」「金曜日だし、仕事が終わったら夜更かしして映画を見よう。」そういった些細な楽しみを、日々の中で自ら生み出そうとするようになりました。(そうでもしないと頭が逝っちゃいそうな日々を送っていたことはここだけの話です。)

そして、なんとといっても、親のありがたみを本当に強く感じました。疲れ果てて仕事を終えても、温かいご飯が用意されていないこと。1人ぼっちで食べるご飯は美味しくないこと。1人で食べるご飯でも母が作ってくれた手料理だけは美味しいこと。1日掃除をしないだけで部屋は汚くなること。気づいたら洗濯物が溜まってしまって、着る物がないこと。朝寝坊しても、誰も起こしてくれないこと。そんなできごとにつづつ合うたびに、「ああ、親は本当に偉大な…。」と痛感しました。分かっていたつもりではありましたが、分かっていたとは言えないほど、親のありがたみは大きな大きなものでした。

気がついて、分かっているつもりでも、少し離れてみないと本当の有り難みに気がつかないことが、他にもまだ、周りにはたくさんあるのだろうと思います。できれば離れる前に、そして失う前に、それらに最大限の恩返しができるように、些細なことにも感謝して生きていきたい。その考えこそ、1人暮らしが教えてくれた、1番大きなものではないか。ならば、多少の生活の乱れは許してほしい、そう思いながら、今日も私は元気に生きていきます。



会社の先輩たちと（筆者は後列右から2番目）



第16期大学院生のエディ（王 咏奕）さんと第16期りさ（北嶋梨紗）と  
（筆者は1番右）